

平成25年度 特色ある公民館事業（国見町）

国見町伝統芸能継承事業

「子ども和楽器体験教室」

と き：平成25年10月12日（土）

と ころ：観月台文化センター

小・中学生に、日本に古くから伝わる琴や三味線などの和楽器に触れさせ、合奏して親しませる事業です。平成15年にスタートしたこの教室は、その後も継続され、平成23年度からは公民館も加わった実行委員会形式での運営となりました。年間12回の開催で、第12回目は発表会となっています。

対 象：国見町の小学4年生から中学2年生まで 25名程度（琴20、三味線5）

指導者：古典鑑賞会の高橋幸子先生他、会員の皆さん

琴のパート練習

講座修了生の高校生も指導ボランティアとして練習に参加しています。

畳に座って小学生が真剣に練習していました。先生や古典鑑賞会の皆さんが、大勢の小学生を分担して指導していました。

「難しいけど、できたときの達成感が気持ちいいです。」

「左手で弦を押して音を変えるとところが楽しいです。」などと、小学生が琴を弾いた感想を聴かせてくれました。



三味線のパート練習

琴のパートとは別室で、少人数で真剣に練習をしています。

この日は、小学生1人の他に高校生2人も指導を受けていました。一心不乱に練習する姿に圧倒される感じがしました。

「弦を押さえる指が痛くて少し辛いです。バチを持つ手の小指も痛いです。でも、上手になっていくのがわかるのでうれしいです。」と小学生が感想を聴かせてくれました。



全体合奏

パート練習の成果を確かめるように、みんなで聴き合いながら合奏です。

合奏の曲目は、「さくらさくら」「かぞえ唄」「糸車」「花かげ変奏曲」等、レパートリーの多さに驚かされました。全員で合奏すると館内に弦の音が響き渡り、普段の日常では経験できないような空間にいる感じがしました。子ども達一人一人に演奏の技能が身につけていて、これまでの練習の成果を感じました。



高橋先生は、県北中学校を始めいくつかの中学校でも、特別非常勤講師として音楽の時間に琴の指導をされているそうです。国見町立県北中学校では、この教室の受講生が中心になって練習するので、他の学校より上達が速いそうです。また、この教室の発表会を聴いて、昨年からは女性教室が、今年からは高齢者のあつかし学級が、公民館での琴の練習を始めました。和楽器の響きが町民の中にだんだん広がっているようです。